

# 地愛地育のまちづくり



重要文化的景観に選定された「遊子水荷浦の段畑」

宇和島市で開催する第7分科会は、NPO法人「段畑を守る会」と宇和島市生活文化若者塾「拓己塾」が連携して「地愛地育のまちづくり」と題して分科会を開催します。

## 「段畑」の位置

宇和島市の半島部にある遊子水荷浦地区は、戸数40戸160人余りの集落です。

遊子には、国の重要な文化的景観に選定された「遊子水荷浦の段畑」があり、1日目の会場となります。

リアス式の沿岸部には、30〜40度の急斜面を「段畑」として利用する独特の風景が広がり、地域の人達は馬鈴薯を

作りその保全を行っています。

また、段畑の前には、幾何学模様様の養殖いかだが無数に点在し、四季折々の美しさ、海と山に懸命に働く人々の姿は、今日多くの人達の心に残る風景です。

## 段畑を守る会

「段畑を守る会」は、地元耕作者等を中心し平成12年に設立し、平成19年にNPO法人の認証を受け、会員80人・賛助会員100人で構成しています。

主な活動としては、「ふる里だんだん祭」等の各種イベントの開催、地元特産品の販売（馬鈴薯で作った焼酎「段酌」）



NPO法人段畑を守る会  
副理事長  
**松田 鎮昭**  
(宇和島市)



馬鈴薯の収穫後

と食品、鯛、貝柱、ひじき）、来訪者へのガイド、景観の保全活動、段畑オーナー制度の実施等を行っています。

このような活動の中、少しずつ共感していただける人達が増えていると感じています。国の重要な文化的景観の選定を得た今、景観の保全と存続を強く意識し活動しています。

## 「守ろう会」活動基本方針

- **だんだん**（方言で「ありがとう」）  
↓行政・来訪者・地元の人々・会員・賛助会員に感謝
- **耕して天に至る**（先人達の遺産）  
↓保全と存続
- **地愛地育**  
↓地元を知り、地元を学び、地元に生きる（山の幸・海の幸を利用した食品の開発と販売）



宇和島市生活文化若者塾  
「拓己塾」塾長  
**西本 陽平**  
(宇和島市)

■宇和島市生活文化若者塾「拓己塾」HP <http://takumijuku.hp.infoseek.co.jp/>

現在の組織力では多くは望めませんが、地道で地につけた活動を継続したいと思います。

**若者流まちおこし**

**「拓己塾のまちおこし」**

「守ろう会」と一緒に分科会を実施する「拓己塾」は、町おこしをしようと思った20人程度の宇和島市在住の若者グループで、自己研鑽の意味を込め、「己を拓く」＝拓己という名前にしています。

これまでの主な活動は、作家片山恭一氏の大ヒット小説「世界の中心で、愛をさけぶ」の原作風景を紹介する「セカチューマップ」や、お遍路さんと市民とがコミュニケーションを図るため、あえて不親切につくった「ふしんせつお遍路マップ」といった各種マップの作成、そして四国初のご当地検定である宇和島「通」歴史・文化検定の実施など、塾生のアイデアで、町おこしになりそうなものにチャレンジしています。

「拓己塾」の事業の多くに一貫しているのは、宇和島にあるものの再発見、そしてその魅力に気づくという「掘りおこし」だと思えます。まず郷土を知り、それを活かす。町おこしの根底とは、こういうものなのではないかと考えています。

**段畑を取り巻く課題**

国の重要文化的景観の選定により、昨年は1万2千人を超える人が「段畑」を訪れました。訪れる人は増加傾向で、耕作地も平成12年の2haから4ha



早掘り馬鈴薯

に広がり、今後更なる開拓が決定しています。全体的には向上の一途ですが、後継者の育成が急務となっています。

耕作者は平均70才を超え、耕作作業等は非常に重労働です。年々馬鈴薯の要求も高まるなど、地域団体商標（ブランド）への要求も有り、いかに生産、品質、広告における責任を向上させるのか、耕作者の意識改革も重要と思われまます。

守ろう会も男性の活動は限定的であり、日常活動も十分とはいえません。どのように若い力を導入すべきか、難しい問題を抱えています。

**愛媛大会を迎えるにあたり**

一方の「拓己塾」も「継続的な活動をどう行うのか」という問題を抱えています。

各々の活動を継続するために、複数の団体が連携しながら、郷土を愛する人材を育み、仲間の輪を広げたいと考えます。

大会を迎えるにあたり、「拓己塾」としては、自分達が行ってきた事業がどれだけ通じるか、ある意味「実験」だと考えています。全国から集った町おこしのエキスパートの意見を吸収し、これからの役立てたいと思います。

このような大きな研修交流会への参加は初めてですが、「当たって砕ける」の精神でがんばりたいと思います。

そして、この大会が、互いが抱えている様々な課題を解決する糸口になり、将来に希望を抱けるいい意見交換の場になればと思います。



拓己塾生がだんだん祭りに参加しました（水荷浦にて）